



地球のこれからを考える— 少しずつできることから

昨年、私たちの住む多治見市で観測史上最高気温である40.9度を記録したことは皆さんの記憶と体に残っていることと思います。この夏頻発した、ごく狭いエリアでの集中豪雨や日本列島のすぐ南で発生したゲリラ台風、そして今年も続いた猛暑も地球の温暖化と無関係ではありません。

今年開かれた洞爺湖サミットでは、地球規模での環境問題が主要テーマとなり、岐阜県としても『CHANGE マイライフ』を合言葉に、県民が取り組む地球温暖化防止を実施しています。

また、6月から始まった環境月間を契機に、県民の皆さんが身近で実践できる地球温暖化防止への10の取り組みを『きふエコ宣言』に、私にできる10の宣言としてまとめ、広く宣言を募集したことは、存じの方もおられると思います。

最近、身近なことから環境問題に取り組もうと、『マイはし使用』や『レジ袋有料化』への動きが活発になってきています。



マイはしとレジ袋削減をその一歩に

まず、マイはし使用によるCO2削減等の効果ですが、割りばし1膳のCO2排出量は燃焼した場合18gとされています。1人あたりの割りばしの年間使用本数は約200膳で、1年間に日本で使用される割りばしの本数は250億膳と推計されています。

現在、県下ではマイはし運動に対して10万人の参加目標を掲げており、18g×200膳×10万人で、約360tものCO2が削減できるのです。



多治見市でも、「マイ箸の会」NPO法人MYの設立等により少しずつ浸透していき、私自身も積極的に関わっていきたくと考えています。

一方のレジ袋有料化に向けた取り組みでは、東濃圏域(多治見市、土岐市、瑞浪市、中津川市、恵那市)において今年の10月1日から食品スーパー等でレジ袋を有料化することが決定されました。

県内のレジ袋使用量は年間約5億枚、一人当たり250枚と試算されています。レジ袋1枚のCO2削減効果は50gとされており、今回東濃圏域の人口約36万人が使用を控えると、4500t/年の削減効果が期待されます。

さらに、レジ袋を作るのに必要な石油の量は1枚当たり18・3mlで、レジ袋を5億枚減らすと、ドラム缶32000本分の石油を節約できることにもなるのです。

環境問題は、待ったなしのところまで来ています。一人ひとりが地球の住人であることを意識し、ライフスタイルや価値観を変える努力をしなければならぬと思います。

委員会活動報告 『真に子どもたちの幸せを願う教育』のために—

本年は「教育警察委員会」に所属することになりました。教育警察委員会とは名前の通り、教育と警察に関して県としての指針を決めていく委員会です。最近の教育分野での活動をご報告します。

- 『真に子どもたちの幸せを願う教育』を基本理念として、次の4つの重点施策の推進に努めています。
- 一人一人の児童生徒が才能を伸ばすことができる教育の推進
- 児童生徒が安心して通うことができる信頼される学校づくり
- 家庭・学校・地域社会が連携して取り組む自律的で心豊かな人づくり
- 文化・スポーツの振興を通した県民生きがいづくり

また信頼される学校づくりに関しては、各学校の校長のリーダーシップによる学校独自の教育活動の充実を図るよう特色ある学校づくりを推進しています。

そんな中、委員会の視察で6月5日に多治見市立笠原小学校に行ってきました。同校は、文部科学省研究開発指定校として平成15年～17年度を1期目、平成18年～20年度を2期目として「小・中連携」「英語教育」を研究指定のテーマとして取り組んでいます。

授業風景を視察させていただきましたが、自分が小学生の頃とは大いに違い、児童の実態を踏まえた教材・教具の開発、指導の工夫がなされており、笠原型の「内容・題材重視型指導計画」による授業作りが明確に感じ取れました。

笠原校区の一貫教育、英語教育は多治見市の特色ある教育の一つとして、今後も岐阜県中に広めていただきたいと考えています。

